

山陰の弥生時代

～山陰弥生回廊を歩く～



青谷上寺地遺跡出土木製容器



加茂岩倉遺跡出土銅鐸



西谷3号墓模型



青谷上寺地遺跡出土花弁高杯



妻木晩田遺跡



田和山遺跡

史跡整備ネットワーク会議
事務局

島根県教育庁文化財課 〒690-8502 島根県松江市殿町1番地
TEL.0852-22-5880 FAX.0852-22-5794
鳥取県地域づくり推進部文化財局 〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
とっとり弥生の王国推進課 TEL.0857-26-7932 FAX.0857-26-8128

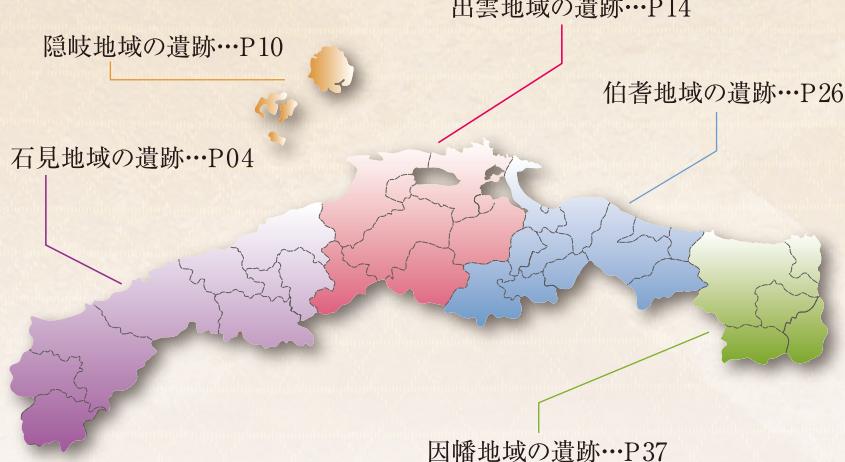


山陰史跡整備ネットワーク会議

発行:2019年9月

山陰史跡整備ネットワーク会議 [検索](#)

もくじ



年表

時代区分	西暦	主な出来事
弥生時代	前期 前8～9世紀頃 (前4世紀頃)	本格的な水稻耕作が始まる。
	中期 前4世紀～ (前2世紀) 前1世紀頃	倭人は百余国に分かれ、一部が漢の楽浪郡に朝貢する。(『漢書地理志』)
	後期 後1世紀～ 57 147～189 239 248	倭奴国王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を賜る。(『後漢書東夷伝』) 倭国大乱(『三国志』魏志倭人伝) 倭の女王卑弥呼が魏に使いを送る。 魏の皇帝は卑弥呼に「親魏倭王」金印紫綬、銅鏡100枚を与える。 卑弥呼没(『三国志』魏志倭人伝)
古墳時代	前期 3世紀中頃 266	前方後円墳の築造が本格的に始まる。 倭の女王が晋に使いを送る。(『晋書』)

*弥生時代前期から中期の年代観は、国立歴史民俗博物館が提唱する、放射性炭素年代測定法による年代にもとづく曆年較正年代です。()内の年代は従来の年代観です。

はじめに

山陰両県には、荒神谷遺跡や妻木晩田遺跡のようによく知られた遺跡以外にも、たくさん弥生時代の遺跡があります。現在、鳥取県で約450(因幡約50、伯耆約400)、島根県で約610(出雲440、石見155、隱岐15)の遺跡が確認されています。本書は、史跡として保存され整備された遺跡や、現地に説明板などがあり見学できる遺跡を中心に、山陰の主な遺跡と出土品を紹介しています。本書を片手にぜひ遺跡現地を訪ねていただき、立地と景観を肌で感じ、弥生時代のひとびとが見た世界に思いをはせていただければ幸いです。

--- 山陰の弥生時代 ---

1 弥生文化の黎明

弥生時代は、灌漑水田による稻作の導入をもって始まったと考えられます。山陰の弥生文化は、九州北部や山口県西部からやって来た水稻耕作、土器の製作方法、金属器の使用といった外来の要素と、縄文時代以来の伝統的な要素とが融合して成立っています。伝統的要素には、石器や骨角器の素材や技術、すまい(竪穴建物)の構造、漆の使用などがあげられます。弥生時代前期、外来の要素を受け入れた山陰の遺跡は、古浦遺跡や原山遺跡、矢野遺跡、長瀬高浜遺跡など、水上交通に便利な海岸や沿岸部に多く営まれています。これらの遺跡では弥生土器や縄文時代とは異なる大陸系の磨製石器を使っていました。

2 弥生文化の拡大

弥生時代前期末から中期にかけて、丘陵の上にも集落が営まれるようになり、集落を取り囲む環濠をめぐらせる遺跡もあらわれます。またこの時期には、青銅器を用いた祭祀が盛んにおこなわれるようになります。中期末～後期には荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡で大量の青銅器が埋納され、石を貼りつけた貼石墓から発展した四隅突出型墳丘墓が出現するなど、大きな変動がありました。

3 王墓誕生

弥生時代後期には遺跡の数が増え、妻木晩田遺跡や越敷山遺跡のように丘陵全体に広がる大規模な遺跡もみられるようになります。四隅突出型墳丘墓は規模が大きくなり、西谷墳墓群のように「王墓」とみられるものがあらわれます。この時期には朝鮮半島や九州北部との交流によって、鉄器やガラス製品などがたらされるほか、吉備や北陸など列島内外との広い地域間交流があったことをうかがえます。

さまざまなお跡と出土品

～弥生時代のみかた～

住まい

弥生時代の一般的な住居・工房である竪穴建物は床面部分を一段掘り下げて建てられています。一方、掘立柱で床を高くした倉庫のような建物もありました。



発掘した竪穴建物跡(妻木晩田遺跡)

木材を組み上げたところ(妻木晩田遺跡)

屋根を葺いて完成(妻木晩田遺跡)



高床式の掘立柱建物(妻木晩田遺跡)



よみがえったムラのすがた(妻木晩田遺跡)

葬る

地面に直接墓穴を掘ってそのまま埋葬する土塙墓が一般的にみられるほか、墓穴の上に石を敷き詰めた配石墓などもあります。古墳と同じように土を盛り上げたお墓は、古墳時代の古墳と区別して墳丘墓と呼んでいます。墳丘墓は平面が方形で貼石をしたものから、四隅が突出した山陰地域に多く分布する四隅突出型墳丘墓へと発展し、地位の高い人物があらわれたことを物語ります。



残存していた人骨(古浦遺跡)



配石墓(原山遺跡)



方形貼石墓(梅田壹峯遺跡)



密集する小型の四隅突出型墳丘墓(妻木晩田遺跡)



大型の四隅突出型墳丘墓(西谷3号墓模型)

いのり・うらなう

祭祀に使われたと考えられる様々な出土品があります。ト骨は動物の骨を熱してヒビの入り方で占いをしたものです。土笛は弥生前期、日本海沿岸地域に分布し、まつりの場で吹かれたと考えられます。銅鐸や銅剣などの青銅器も、稻作などの農耕にかかる祭祀に使用されたというのが一般的な説となっています。



占いに使われたト骨(動物の骨)(青谷上寺地遺跡)



まつりに使われた土笛(西川津遺跡)



分銅形土製品(阿弥大寺遺跡)



神殿(?)を目指して漕ぐ船の絵(稻吉角田遺跡の土器絵画)



埋納された青銅器(荒神谷遺跡)

なりわい・道具

稻作を中心に、狩猟や漁労、採集活動により食糧を得ていました。素材の特徴を生かした様々な道具を巧みに作り出しています。鉄素材はまだ国内で作ることができず、大陸や朝鮮半島から入手したものを加工して鉄の道具を作っていました。玉や漆製品など、特殊な生産活動もみられます。



水田のあぜの跡(夫敷遺跡)



さまざまな石器(西川津遺跡群)



さまざまな木器(姫原西遺跡)



シカの角を用いた釣針(西川津遺跡群)



鉄器(大陸製の鋳造鉄斧)(青谷上寺地遺跡)



管玉の製作関連資料(西川津遺跡群)



漆を集めた土器(中野清水遺跡)



弥生前期の土器(西川津遺跡群)

石見地域

石見地域の遺跡

石見地域は全体に山地が広がっており、標高100m前後の山が海岸付近にまでせまっています。河口に形成された平野や、山間部の盆地の規模は小さく、山陰地方の東側と異なる景観を作っていました。その様子はこれまでに確認された遺跡にも現れています。

弥生時代前期の遺跡は調査例が少なく、集落の様子がわかる遺跡は現在確認されていません。中期以降は遺跡の数が増え、集落跡や墳墓も確認されています。



県
指 定

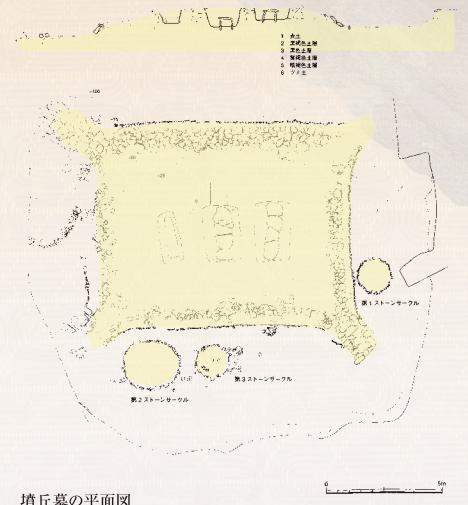
じゅうなんばらいちごうぼ **順庵原1号墓** [元祖!四隅突出型墳丘墓]

昭和43・44年、初めて発掘調査で確認された「第1号」の四隅突出型墳丘墓です。当時は山陰地域にそのような墳丘墓があることが全く知られていなかったため、四隅が飛び出した不思議な形状に研究者は大いに悩まされたようです。当初は「山間部における発生期の特殊な古墳」と考えられていましたが、その後、松江市や安来市でも類似の墳丘墓が発見され、こうした弥生時代の墳墓が山陰地域の広い範囲に分布することが明らかになっていきました。順庵原1号墓は学史の第1歩を刻む重要な遺跡です。

墳丘は長辺10.75m、短辺8.25mあり、墳丘上には3つの埋葬施設があります。うち2つは石を組み合わせた石棺が收められていました。内部から60個以上のガラス製の玉が出土しています。墳丘の裾まわりには、石を円形に並べた不思議なストーンサークルが3基見つかりました。

この墳丘墓は弥生時代後期前葉に造られたとみられます。現在の国道をはさんで南東方向に40mほど離れた順府原B遺跡では同時期の大型竪穴建物跡が見つかっており、お墓を作った集団が近くに住んでいたことがわかりました。

順庵原1号墓は昭和45年に県指定史跡となり、現地に保存されています。ストーンサークルや墳丘裾の列石は保護のため埋め戻されていますが、墳丘の形状や貼り石の一部を見学することができます。また出土品は邑南町郷土館に展示されていますので、現地と併せて見学されることをお勧めします。



壇丘草の平面図



押葬施設から出土したガラス玉



発掘調査時を復元した模型(古代出雲歴史博物館常設展示)

邑南町郷土館

【所在地】邑南町下龜谷
【開館時間】9:00～16:00
【入館料】無料
※臨時休館の場合がありますので、
事前に電話にてご確認ください。
【お問い合わせ】TEL 0855-83-1580

石見地域

町
指定

かりやどうたくしゅつどち 仮屋銅鐸出土地【邑智郡の至宝】

邑南町

大正3(1914)年、開墾中に2個の銅鐸が発見されました。出土地点は盆地に張り出した台地の上で、2個の銅鐸は横にして並んだ状態で見つかったとされています。平成元年にあらためて出土地が発掘調査され、銅鐸が埋納されていたとみられる径約1m、深さ14cmのくぼみが確認されています。この埋納坑の上には出土地であることを示す標柱が立てられていますので、現地を訪れて見学することが可能です。

出土した2個の銅鐸は現在、東京国立博物館に収蔵されており、レプリカを邑南町郷土館および古代出雲歴史博物館で常設展示しています。

【所在地】邑南町中野字仮屋 【お問合せ】邑南町教育委員会 / TEL.0855-83-1127



仮屋出土の銅鐸



出土地の遠景

町
指定

おきじょういせき 沖丈遺跡【江の川中流域のお墓と集落跡】

美郷町

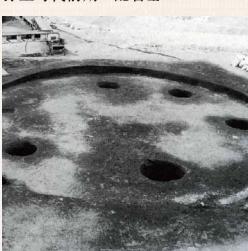
江の川を見下ろす河岸段丘上に営まれた遺跡で、弥生時代前期の配石墓が24基、弥生時代後期後半の竪穴建物跡22棟が発見され、たいへん話題になりました。配石墓は遺体を埋葬した穴の上に人頭大の川原石を敷き並べたものです。うち4基の墓内からは計112点もの管玉が出土しました。

弥生時代後期後半の竪穴建物跡は何度も建て替えられている様子が明らかになっており、ひとつのムラがどのように変遷するのかを示す貴重な事例となりました。多量の土器、石器が出土していますが、特に鉄製品77点が出土しており、遺跡のどこで鉄器加工=鍛冶をおこなっていた点が注目されます。

調査された遺跡は保護して埋め戻し、現在は道路の下となっています。道路脇には遺跡の説明板が設置されており、遺跡の立地を見学することができます。また美郷町役場となりの山村開発センターには配石墓のひとつ(10号墓)のレプリカと土器が展示されています。



弥生時代前期の配石墓



弥生時代後期の竪穴建物跡



墓の中から出土した管玉

市
指定

かみじょういせき 上条遺跡【本州最西端の銅鐸出土地】

浜田市



上条遺跡出土銅鐸



出土地に立つ標柱(人物が埋納坑の位置)

下府川に面した谷の奥、標高70mほどの丘陵斜面に立地していて、大正時代に壁土に使う土を掘っていて銅鐸2個が偶然発見されました。出土地の眺望は悪く、下府の平野からは山の裏側になって見えません。

2個の銅鐸は別々に見つかっており、20~30cmほど離れていたようです。平成10年に発掘調査され、銅鐸が埋納されていた可能性のある穴が確認されました。出土推定地は埋め戻され、江津道路の脇に保存されています。現地には説明板が設置してあり見学が可能です。出土した2個の銅鐸は東京国立博物館に収蔵されており、レプリカは浜田町郷土資料館および古代出雲歴史博物館に展示されています。

【所在地】浜田市上府町一ノ界引越
【お問合せ】浜田市教育委員会 / TEL.0855-25-9731

県
指定

ならはまいせき 波来浜遺跡【砂に覆われた遺跡】

江津市

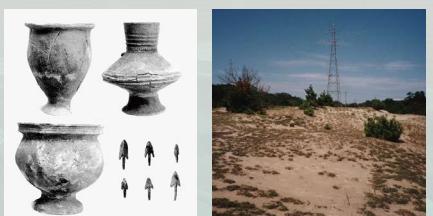
海岸線から約800m離れた砂丘裾部に広がる遺跡で、昭和44年、砂採取の際に土器や人骨が出土して遺跡が発見されました。昭和46・47年に最初の発掘調査がおこなわれ、12基の墳墓が確認されています。そのうち2基は弥生時代中期中葉に造られたもので、山陰でも最古級の貼石墓として注目されます。特に、高さ0.9mの墳丘と扁平な貼石を持つ2号墓は、四隅突出型墳丘墓が誕生する前段階の墳墓の形態を示すものとして重要です。

完全な形の土器がまとめて出土しており、波来浜遺跡出土の弥生土器は昭和45年に一括して島根県の有形文化財に指定されました。出土品は古代出雲歴史博物館で展示しています。

調査後に現地は埋め戻されていますので見学できませんが、現地の立地環境を観察することは可能です。国道9号線から南側に入る脇道近くに標柱があり、ここから松林を登った砂丘一帯が波来浜遺跡です。



1号墓発掘の様子



出土品の一部 現在の波来浜遺跡

石見地域

前立山遺跡

吉賀町

[高津川上流域の大集落跡]

昭和53年から発掘調査され、丘陵上に営まれた弥生時代後期頃の竪穴住居跡が23棟見つかりました。前立山遺跡から約500m北東の河岸段丘上にある沖場遺跡でも、弥生時代後期後葉～古墳時代前期の竪穴建物跡が10棟以上見つかっています。いずれも現地は見学できませんが、前立山遺跡出土品の一部は水源会館で展示しています。

【所在地】吉賀町注連川字前立山
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター
TEL.0852-36-8608



前立山遺跡の集落跡

大蔭遺跡

津和野町

[縄文時代から続く集落跡]

津和野の町並みの南方、道の駅「津和野温泉なごみの里」がある川沿いの段丘一帯が大蔭遺跡です。平成10年からおこなわれた発掘調査で、縄文時代晚期後半～弥生時代初頭と、弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡が見つかっています。発掘した部分はすでに県道の下になっていますが、それ以外の遺跡は土中に残っています。

【所在地】津和野町鷺原
【お問合せ】津和野町教育委員会
TEL.0856-72-1854



大蔭遺跡の集落跡

中小路遺跡

益田市

[土器棺墓群と集落跡]

中小路遺跡では、2つの土器の口を合わせて組み合わせたお墓、土器棺墓が多数まとまって発掘されました。何度も建て替えられた竪穴建物跡も見つかっています。高津川沿いの安富平野には他にも羽場遺跡、安富王子台遺跡といった弥生時代の集落跡が知られています。

【所在地】益田市安富町
【お問合せ】益田市教育委員会
TEL.0856-31-0623



密集する土器棺墓

鰐石遺跡

浜田市

[弥生前期の土坑群]

周布川の河口近く、標高2mほどの微高地にある遺跡です。昭和48年、発掘調査により遺跡が発見され、32基の土坑(穴)の中から多量の土器、石器、管玉などが出土しました。これらの土坑は墓や、食糧等を貯蔵するための穴と考えられています。石見地域の代表的な弥生時代前期の遺跡として重要な遺跡です(遺跡の時期は前期中葉～中期初頭が中心)。

出土した石器には斧、鎌、鏸、劍など多くの種類があり、大陸系の磨製石器が多く含まれている点が特徴です。鰐石遺跡出土品は平成7年に市指定有形文化財となっており、浜田郷土資料館で展示されています。遺跡現地は見字はできません。

【所在地】浜田市治和町相田
【お問合せ】浜田市教育委員会／TEL.0855-25-9731



鰐石遺跡の出土品(市指定文化財) 徒歩で約10分

専光寺脇遺跡

益田市

[国内最西端の方形貼石墓]

益田川東岸の丘陵上に造られた、弥生時代中期後半頃の墳墓群です。1号墓は一辺が9.8×8.8mの四角い丘陵に丸い川原石を貼りつけた貼石墓で、日本海沿岸を中心に確認されている同様の貼石墓の中では最も西に位置しています。

【所在地】益田市久城町
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター
TEL.0852-36-8608



手前が1号墓

浜寄・地方遺跡

益田市

[石見地域で数少ない弥生水田跡]

高津川西岸の低地にある遺跡です。弥生時代中期ごろの水田跡が見つかっています。水田の1区画は長辺20m、短辺3～5mで、畦により整然と区画された状態で20枚ほどの水田区画が確認されました。

【所在地】益田市高津町
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター
TEL.0852-36-8608



上空からみた水田跡

古八幡付近遺跡

江津市

[日本海を見下ろす集落跡]

敬川東岸、日本海を見下ろす標高約60mの丘陵上に営まれた弥生時代中期頃の集落跡です。竪穴住居跡3棟、掘立柱建物1棟と、これらを囲む溝(環濠)が確認されました。丘陵上に遺跡が広がっていると推定されます。現在は見学はできません。

【所在地】江津市敬川町
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター
TEL.0852-36-8608



集落を囲む溝

庵寺遺跡

大田市

[県内最多35点の田下駄出土]

発掘調査で見つかった流路の跡から35点もの弥生時代の田下駄が出土しています。

また、100mほど離れた五丁遺跡でも小さな流路跡を確認しており、縄文時代晚期～弥生時代前期の土器が多数出土しています。

【所在地】大田市仁摩町大国
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター
TEL.0852-36-8608



→出土した田下駄

隱岐地域の遺跡

昭和30年代までは、隱岐諸島には弥生時代の遺跡が存在しないと考える研究者もいたそうです。昭和41年に河川改修の工事中に月無遺跡が発見され、はじめて弥生土器と稻作に伴う木製農耕具や石包丁が出土しました。これ以降、弥生時代の遺跡数は着実に増加しており、少ないながらもバラエティに富んだ遺跡が知られています。隱岐で産出する黒曜石は弥生時代になんでも本土に運ばれていますし、本土から運ばれてきたとみられる土器などもあります。当時の人々は活発に海を渡って交流していたと考えられます。

● 現地見学可能な遺跡



県
指

おおしろいせき
大城遺跡 [隠岐の島で初めて見つかった四隅突出墓] 隠岐の島町

運動公園の建設とともに、成10年に発掘調査がおこなわれ、四隅突出型墳丘墓が1基見つかりました。それまで隠岐では弥生時代の墳墓がまったく見つかっていなかったので、「やっぱり隠岐にも四隅突出型墳丘墓があった!」と話題になりました。

大城遺跡は西郷湾を見下ろす標高30mほどの丘陵上にあり、尾根の自然地形を利用して墳丘墓が作りだされています。突出部を除く長辺の長さ約18m、突出部を含めると20m以上の規模があり、墳丘の裾には川原石が規則正しく並べて貼り石とされていました。貼り石はゆるやかにカーブしており、四隅が突出することがはっきりわかります。

墳丘には4つの埋葬施設があります。墳丘の中心に埋葬された最も大きな埋葬施設には、木棺が埋められていたことがわかりました。その内部からは十器と碧玉製の管玉10点が出土しています。

昭和51年には付近からスタンプで模様をついた土器が見つかっています。肩部に3つの注口がつき、スタンプで渦巻きと水鳥の模様を交互に押した珍しい土器で、埋葬の儀礼のために特別に作られたものと考えられます。平成10年に発掘された四隅突出型墳丘墓の近くから見つかっており、土器は墳丘墓にともなうものであった可能性が高いとみられます。

大城遺跡の四隅突出型墳丘墓は、運動公園の一画に墳丘を復元して整備されており、自由に見学ができます。スタンプ文十器は隠岐郷十館に展示されています。

【所在地】隱岐の島町西町字吉田

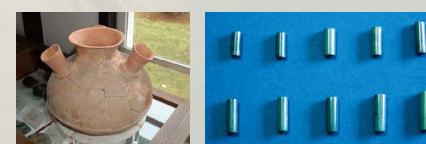
【お問い合わせ】隠岐の島町教育委員会／TEL.08512-2-2126



発掘時の墳丘



整備された状況



スタンプ文具



隱岐鄉十館

【所在地】 隠岐の島町郡
【開館時間】 9:00～17:00
【入館料】 300円
【休館日】 年末年始と12～3月の土日・祝日
【お問い合わせ】 TEL.08512-5-2151

隠岐地域

つきなしいせき 月無遺跡 [川底から多量の出土品]

八尾川河口から2kmほどさかのぼった有木郵便局の付近にある遺跡です。昭和41年、八尾川の河川改修工事が行われている現場で、多量の弥生土器、石器、木器が採集されました。これらの遺物は川床から2mほど下、標高-2mの土中に埋没していました。浅い内湾が埋まり陸地化していく過程で、周辺の集落から流れ込んだものと考えられます。護岸などの可能性のある杭列なども同時に確認されており、近傍に水田や集落があったことが推定されます。

出土品は弥生時代前期末～後期の土器と、黒曜石製の鎌、石包丁、木製の鋤・鉤などがあります。これらは隠岐でも弥生時代から稻作がおこなわれていたことを示す資料として注目されます。

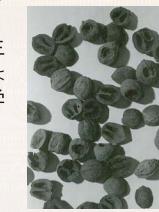
月無遺跡は隠岐で最初にみつかった確実な弥生時代の遺跡としても、学史に残る遺跡と言えるでしょう。遺跡は一帯に広がっているとみられていますが、見学できるところはありません。

【所在地】隠岐の島町有木字月無
【お問合せ】隠岐の島町教育委員会
TEL.08512-2-2126

隠岐の島町



現在の月無遺跡一帯の様子



多量にみつかったkulmi



出土した土器

町
指
定

たけだいせき 竹田遺跡 [隠岐の島で唯一の弥生青銅器]

平野北側の丘陵に遺跡が広がっています。昭和43年秋、桑畑を造成するため斜面をブルドーザーで削っていたところを海士中学校生徒が訪れ、土器片とともに銅剣を発見しました。昭和45年に附近を日本考古学協会が発掘調査した結果、この銅剣は多量の土器とともに溝に廃棄されたような状態で埋まっていたことが確認されました。遺跡はそのまま保存されていますが、現況は山林となっており特に見学できるものはありません。

銅剣は本来50cmほどの長さであったものが何らかの理由で破損し、弥生時代後期に溝へ廃棄されたとみられます。掘り出された際にもさらに破損しており、刃部のほとんどを損傷し基部の17cmだけが残っています。

この銅剣は隠岐の島で唯一の弥生青銅器であり、昭和47年に県指定有形文化財に指定され、現在は古代出雲歴史博物館で展示されています。

【所在地】海士町海士
【お問合せ】海士町教育委員会
TEL.08514-2-1221

海士町

銅剣の出土地



竹田遺跡出土の銅剣 出土地の現状

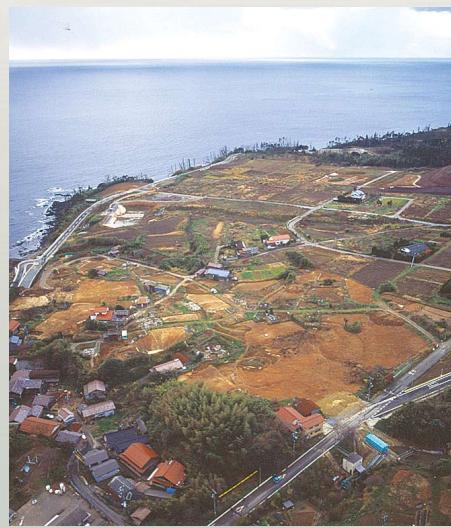
ひがしふねいせき 東船遺跡 [港を目の前にした住居の跡]

弥生時代後期頃の竪穴建物跡が2棟見つかっています。出土した土器の多くはオレンジ色をして厚ぼったいのが特徴ですが、住居跡から見つかった土器の中には白っぽく薄手なものが含まれていました。オレンジ色のものは地元産、白っぽいものは同じころの出雲地域の土器と良く似ていることから海を越えて本土から運ばれたと考えられます。

隠岐では住居跡の調査例も少なく貴重な事例ですが、現在は隠岐空港滑走路の下になり消滅しています。

【所在地】隠岐の島町今津字東船
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター
TEL.0852-36-8608

隠岐の島町



空からみた発掘中の東船遺跡

12



オレンジ色の土器(左)と白っぽい土器(右)

さいとうじいせき 西塔寺遺跡 [集落を囲む環濠か]

西塔寺遺跡は平野を見下ろす丘陵上に作られた、弥生時代中期～後期の集落跡と考えられる遺跡です。遺跡の周囲では断面形がV字形をした溝跡が見つかり、溝の内部から大量の土器が出土しています。この溝は、集落を囲む防衛的な溝（環濠）とみられ、西塔寺遺跡はいわゆる環濠集落であったと考えられます。このような環濠集落は同時期の山陰各地に作られていますが、この遺跡の発見により隠岐地域にも同様のものがあったことがわかりました。ほとんどが消滅していますが、集落跡は丘陵一帯に広がり地中に保存されている可能性があります。特に見学できる箇所はありません。

後鳥羽院資料館では、海士町内で出土した考古資料が展示されています。

【所在地】海士町海士
【お問合せ】海士町教育委員会
TEL.08514-2-1221

海士町

遺跡の遠景



後鳥羽院資料館

【所在地】海士町海士 【入館料】大人300円
【休館】12～2月休館 【お問合せ】TEL.08514-2-1470

13

出雲地域

出雲地域の遺跡

出雲地域には、大量の青銅器が埋納された荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡、巨大な王墓が集中して築造された西谷墳墓群や安来市の墳墓群、特殊な環壕集落である田和山遺跡といった、全国的に有名な遺跡が多くあります。その背景には可耕地となる平野が広いこと、日本海や内水域を利用した水上交通のうえで地理的条件に恵まれていたこと、などが考えられます。

前期には内水域に面した朝酌川遺跡群、矢野遺跡などで拠点集落が発達し、原山遺跡や松江市鹿島町周辺といった日本海沿岸部に遺跡が認められます。中期以降、平野部を中心に土地の開発が進み、環濠や大溝で囲まれた大きな集落遺跡があらわれ、さらに四隅突出型墳丘墓などの首長墓が出現します。後期にかけて青銅器の多量埋納がおこなわれ、後期後半には王墓が超大型化し、鉄素材をはじめ多様なモノと人が広域に行き交っていたことがうかがえます。



斐川平野



朝酌川遺跡群



安来周辺



古代出雲干陵の丘周辺の拡大図

出雲地域

国
指定

田和山遺跡 [山頂を囲む三重の環濠]

松江市

宍道湖を見下ろす丘陵頂部に位置する弥生時代前期～中期にかけての遺跡です。山頂部には住居跡など生活の痕跡ではなく、神社建築（大社造り）のルーツとの説もある5本柱、9本柱の施設だけが置かれていました。これを柵で囲み、さらに3重の深い環濠が山頂を守るかのように廻らされています。環濠の底からは3000個以上の投石用川原石が見つかり、かなり防御性が意識されていたようです。環濠の外側にはいくつかの住居跡がありました。このように集落ではない山頂を厳重に囲んだ環濠は全国でも外に例が少なく、信仰上の特殊な遺跡ではないかと考えられています。

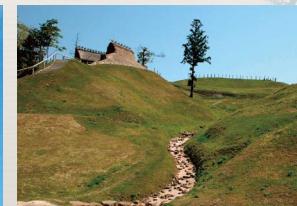
平成13年に国指定史跡となり、史跡公園として整備されました。山頂部では柵や柱の位置が復元され、宍道湖と島根半島を見渡す素晴らしい景色が満喫できます。見学所用時間約60分が目安です。途中、階段の上り下りがあります。

田和山サポートクラブの皆さんによるガイドをおこなっていますので、団体ガイドご希望の方は事前にお問い合わせください。

【所在地】松江市乃白町 【お問合せ】松江市埋蔵文化財調査室／TEL.0852-55-5284



発掘成果をもとに復元された建物



整備後の田和山遺跡



山頂に表示された柱跡

国
指定

西谷墳墓群 [弥生王墓の丘]

出雲市

斐伊川左岸の丘陵上に位置する、弥生時代後期の墳墓群です。2・3・4・9号墓は全国最大級の四隅突出型墳丘墓で、代々の出雲平野の王が葬られたと考えられています。平成12年に国史跡に指定され、平成22年に史跡公園「出雲弥生の森」として整備が完了しました。墳丘が大きく損なわれていた2号墓は内部に展示室を設けて、全体を築造時の姿に復元しています。3号墓は島根大学考古学研究室を中心として発掘調査がおこなわれ、埋葬の様子などが詳細に解明されました。据廻りの列石、貼石のみ復元し、墳丘にのぼって見学できるよう埋葬施設を平面的に表示しています。また4号墓も墳丘を保護したうえで整備しています。巨大な墳丘の上にのぼると、弥生時代の王が目にしたであろう出雲平野を見渡すことができます。

史跡に隣接する出雲弥生の森博物館では、西谷墳墓群の出土品や模型、調査時の様子を展示しているほか、出雲市内の遺跡について総合的に展示していますので、ぜひ史跡公園とあわせて見学ください。

【所在地】出雲市大津町 【お問合せ】出雲弥生の森博物館／TEL.0853-25-1841

出雲弥生の森博物館

【開館時間】9:00～17:00

【入館料】常設展・企画展は観覧無料※特別展は有料【休館日】火曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始



整備された3号墓、左奥に2号墓



2号墓展示室内の埋葬施設模型



博物館内に設置された3号墓の復元模型

出雲地域

国
指定

荒神谷遺跡 [国宝!国内最多の358本銅剣出土]

出雲市

農道建設のための事前調査をきっかけに昭和59年、358本もの銅剣が、さらに翌年には銅鐸6個、銅矛16本が出土し、出雲地域の弥生時代像を大きく塗り替えた著名な遺跡です。遺跡は昭和62年に国指定史跡となり、平成7年には一帯が史跡公園として整備されました。広大な公園には復元住居や古代米を栽培する水田なども設けられています。

平成17年には公園内に荒神谷博物館が開館し、遺跡や出土青銅器について学ぶことができるほか、特別展や企画展なども開催しています。

【所在地】出雲市斐川町神庭
【お問合せ】荒神谷博物館



荒神谷博物館

【開館時間】9:00～17:00
【入館料】有料(お問合せください)
【展示室休館日】火曜日
【お問合せ】TEL.0853-72-9044
【ガイド】あり・要予約

国
指定

猪目洞窟遺跡 [黄泉の穴伝説のある洞窟]

出雲市

島根半島の北側、猪目湾に口をあけた海蝕洞窟内に遺跡があります。昭和23年の漁港改修の際に発見され調査がおこなわれました。その結果、弥生～古墳時代の埋葬された人骨十数体、弥生時代の貝輪や古墳時代の木製品をはじめとした多くの遺物が含まれている重要な遺跡であることが判明し、昭和32年に「猪目洞窟遺物包含層」として国史跡に指定されました。『出雲國風土記』に記載のある「黄泉之穴」がこの洞窟ではないかとする説が有力です。洞窟内は足場が悪く、天井から石の崩落がありますので危険です。なお、県指定文化財の出土品は出雲弥生の森博物館に収蔵され、一部が展示されています。



【所在地】出雲市猪目町 【お問合せ】出雲弥生の森博物館／TEL.0853-25-1841

まないいせき
真名井遺跡

出雲市

武器形青銅器と優美な玉を捧ぐ

江戸時代の出雲大社本殿造営の際に、出雲大社の東方約200mに鎮座する摂社命主社背後の大石の下から硬玉(ヒスイ)製勾玉と武器形青銅器が出土したと記録されています。武器形青銅器は4点あったようですが、現在出雲大社には宝物として銅戈1点が伝わっています。ヒスイは北陸と、銅戈は九州との交流を物語るもので、出雲大社周辺がはやくに祭祀空間として特別であったことを示す資料と考えられています。現在も出土地である命主社の社殿背後には大石があり、神聖な雰囲気を感じることができます。

【所在地】出雲市大社町杵築東
【お問合せ】出雲市文化財課
TEL.0853-21-6893

はらやまいせき
原山遺跡

出雲市

日本海でつながった弥生文化の受容

出雲大社の南東約1km、通称原山と呼ばれる砂丘にある遺跡です。昭和18年に発見されて以後、幾度か発掘調査されています。昭和60年の調査では、埋葬の上に大きな石を円形や長方形に並べる弥生時代前期の配石墓5基が確認されました。出雲平野周辺でもっとも早い時期に弥生文化が伝播した遺跡として、古くから知られている著名な遺跡です。特に見学できる施設はありませんが、遺跡は砂丘一帯に広がっています。西原荒神社付近が良好に遺跡が残されており、地形や立地の観察が可能です。出土遺物は出雲弥生の森博物館に展示されています。

【所在地】出雲市大社町修理免
【お問合せ】出雲市弥生の森博物館
TEL.0853-25-1841



国
指定

加茂岩倉遺跡 [国宝!国内最多の39個銅鐸出土]

雲南市

平成8年、農道建設工事中に偶然発見され、39個の銅鐸が埋納されていたことが確認されました。荒神谷遺跡に続く、出雲の青銅器多量埋納として全国的に注目された遺跡です。平成11年に国指定史跡となり、その後史跡の整備事業がおこなわれました。現地には発見直後の生々しい出土状況が再現されているほか、ガイダンス施設、園路が整備されています。

ガイダンス施設には銅鐸のレプリカや、発見時のドキュメント映像上映、遺跡の解説パネルなどが設置されており、出土地とあわせて見学することで、遺跡の全体像を体感することができます。

【所在地】雲南省加茂町岩倉
【お問合せ】雲南省教育委員会
TEL.0854-40-1104



【開館時間】9:00～17:00
【入館料】無料
【休館日】火曜(祝日の場合は開館)・年末年始
【お問合せ】TEL.0854-49-7885

出雲地域

国
指定

ちゅうせんじふんばぐん
仲仙寺墳墓群 [四隅突出墓を世に知らしめた遺跡]

安来市

昭和45年、宅地造成工事に先立つ発掘調査によって、当時ほとんど調査例の無い四隅突出型墳丘墓であることが判明しました。同じ丘陵上にある古墳群が次々と工事で消滅するなか、昭和46年に四隅突出型墳丘墓2基(8号墓・9号墓)が国の史跡に指定され現地に保存されることとなりました。仲仙寺墳墓群は四隅突出型墳丘墓という特徴的な墳墓が広く存在することを証明しただけでなく、開発と重要遺跡保存の対立という当時の社会状況を象徴する点で、大きな画期となった遺跡です。発掘調査された9号墓は墳丘を保護して整備されていて、現状保存された8号墓とともに見学できます。

【所在地】安来市西赤江町字深廻

【お問合せ】安来市教育委員会 / TEL.0854-23-3316



整備された仲仙寺9号墓

県
指定

ほりべだいいちいせき
堀部第1遺跡 [開拓者たちの墓]

松江市

現在「多久の湯」などがある福祉ゾーン整備のために平成10年から発掘調査されました。その結果「長者の墓」と呼ばれる円丘の裾を取り囲むように配置された57基以上の墓が見つかっており、遺跡の重要性が判明したことから、一部は現状保存され、平成16年に県指定史跡となっています。お墓は木棺を埋めた墓穴の上に石を敷き並べた特殊な構造のもので、土器の形態とともに北部九州などの影響が強く認められます。弥生時代前期に稻作と弥生文化を伝えた集団の墓地と考えられます。福祉センター地内には墓の位置表示がされているほか、センター隣接地には敷き並べた石が移設してあり見学可能です。

【所在地】松江市鹿島町北講武 【お問合せ】松江市埋蔵文化財調査室 / TEL.0852-55-5284



国
指定

みややまよんごうぼ
宮山IV号墓 [最終段階の四隅突出墓]

安来市

安来市立第三中学校がある丘陵上に築かれた四隅突出型墳丘墓です。造成工事による破壊の危機にあった昭和49年、仲仙寺墳墓群(史跡指定名称「仲仙寺古墳群」)に含めた国指定史跡となり、その後公有地化されて整備がおこなわれました。丘陵上には他に全長56mの前方後方墳もありましたが、造成工事により消滅しています。IV号墓は墳丘を保護した上に列石や埋葬施設が復元的に表示されています。また隣接した堅穴建物跡と前方後方墳1基も見学することができます。

【所在地】安来市西赤江町字宮山

【お問合せ】安来市教育委員会 / TEL.0854-23-3316



整備直後の宮山IV号墓

こうらさきゅういせき
古浦砂丘遺跡 [海近くに葬られた人々]

松江市

日本海の海岸砂丘にある遺跡で、弥生時代前期から中期の集団埋葬が確認されています。人骨は60体以上確認されており、貝輪を装着した子供の人骨などがあります。朝鮮半島南部の特徴をもつ土器が出土するなど、日本海を介した人の移動がうかがえます。現地は現在、まつえ北商工会裏の砂山となっており説明板が設置されています。出土品は鹿島歴史民俗資料館で展示しています。

【所在地】松江市鹿島町古浦字砂山 【お問合せ】鹿島歴史民俗資料館 / TEL.0852-82-2797



↑貝輪をはめた子供の人骨
←並ぶように埋葬された人骨

国
指定

しおづやまふんばぐん
塩津山墳墓群 [四隅突出墓の要素を残す前期古墳]

安来市

塩津山墳墓群は弥生時代後期後半の大型四隅突出型墳丘墓2基、後続する古墳9基からなり、平成11年に造山古墳群・大成古墳とあわせて国指定史跡となっています(指定名称は「荒島古墳群」)。安来道路建設とともに一部を発掘調査した1号墳は、墳丘の形や貼石に四隅突出型墳丘墓の特徴を残す点で定型化した古墳への過渡的な姿を示す貴重な遺跡で、現在はトンネルの上に保存して復元整備されています。塩津山トンネル東側の高架下から見学路があり見学可能です。

【所在地】安来市久白町字塩津



トンネルの上に整備された塩津山1号墳

しだにおくいせき
志谷奥遺跡 [偶然発見された青銅器]

松江市

昭和48年、狭い谷の急斜面の中ほどで偶然、銅鐸2個と銅劍6本が掘り出されました。発見時に状況を聞き取り、昭和50年に出土地点を発掘調査したこと、埋納されていた穴と、発見時に取り残されていた銅劍の先端部が発見されています。出土地には標柱が立てられています。なお出土青銅器は古代出雲歴史博物館で保管され、鹿島歴史民俗資料館では、埋納坑の剥ぎ取り模型を展示しています。

【所在地】松江市鹿島町佐陀本郷字志谷奥

【お問合せ】松江市埋蔵文化財調査室

TEL.0852-55-5284



埋納坑に復元的におかれた銅鐸と銅劍

出雲地域

あさくみがわいせきぐん 朝酌川遺跡群 [県下随一の大規模な弥生集落] 松江市

朝酌川に沿った低湿地遺跡群で、2kmにわたって連なる西川津遺跡、原の前遺跡、タテチヨウ遺跡などを総称したのが朝酌川遺跡群です。昭和52年以降、河川改修などによってもなって発掘調査がおこなわれ、膨大かつ優れた出土品が出土し著名な遺跡となりました。ムラの縁辺に広がる湿地であったとみられ、護岸施設や溝跡などが確認されていますが、生活域本体は良くわかつていません。土手上の公園に遺跡の解説板が設置されています。

【所在地】松江市西川津町 【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター／TEL.0852-36-8608



設置されている説明板



人面付土器(土器本体は失われている)

市指定 やのいせき 矢野遺跡 出雲市

【出雲平野の中核となるムラ】

出雲平野の中央部、標高4mほどの微高地上に広がる大規模な集落跡です。弥生時代前期に出雲平野での拠点的な集落として出現し、小山遺跡などと一体となって大きなムラを形成していました。石器や玉、木製品など様々な道具を生産し、他地域との交流を示すものも多くあります。有力者の存在を示唆する装飾品もみられ、出雲平野のリーダーが治めるムラだったのかもしれません。現地は見学できません。

弥生時代前期の土器群

【所在地】出雲市矢野町

【お問合せ】出雲弥生の森博物館／TEL.0853-25-1841



こしいせきぐん 古志遺跡群 出雲市

【神戸川左岸の大規模なムラ】

出雲平野の南寄り、神戸川左岸の微高地上に広がる大規模な集落跡です。古志本郷遺跡、下古志遺跡、田畠遺跡などをまとめて古志遺跡群と呼称しています。環濠とみられる大溝がみつかっており、弥生時代後期を中心に集落が広がっていました。中国に由来する断面三角形の銅製三棱鏡が出土しており、広域の交流を行っていたことがわかります。遺跡の多くは地中に保存され、現地は見学できません。



土器を多量に廃棄した溝跡

【所在地】出雲市古志町・下古志町

【お問合せ】出雲市文化財課／TEL.0853-21-6893

あおきせき 青木遺跡 出雲市

【出現期の四隅突出型墳丘墓】

平成15年に隅がごくわずかに突出した四隅突出型墳丘墓がみつかりました。四隅突出墓の出現期にあたる弥生時代中期後葉のもので、発生源とみられていた三次盆地（広島県）と同時期に出雲平野でも四隅突出墓が造られていることがわかりました。このほか3基の四隅突出墓が確認されたほか、大型の「見る銅鐸」の縁辺にあたる飾耳の破片が出土しています。現在は埋め戻して保護されており、出現期の墳丘墓が復元されて見学が可能です。

【所在地】出雲市東林木町

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター／TEL.0852-36-8608



出現期の四隅突出墓(手前が墳丘の隅) 銅鐸の飾耳

ざんもちいせき 山持遺跡 出雲市

【腐らなかつた柱材】

出雲平野北辺の水田域にひろがる遺跡で、弥生時代後期末頃とみられる建物跡5棟が見つかり、木製柱材が腐らずそのまま土中に残されているものもありました。柱の沈下を防ぐため枕木状の木材の上に柱を立てるなど、地盤が軟弱な低地ならではの構造が残っています。多くの弥生時代の遺物が出土しており、他地域との交流を示す資料もみられます。現地は見学できません。



柱材が残っていた掘立柱建物跡

【所在地】出雲市里方町・西林木町・日下町
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター
TEL.0852-36-8608

なかのみほいせき 中野美保遺跡 出雲市

【低地で初めて見つかった四隅突出型墳丘墓】

出雲平野の中央部に位置し、標高5mの沖積低地で弥生時代中期中葉の方形貼石墓と弥生時代後期後葉の四隅突出型墳丘墓がみつかりました。この発見以前には、四隅突出型墳丘墓は丘陵上の安定した地盤を選んで築かれたと考えられていましたが、低地の平野中心部で発見されたことで話題となりました。道路建設に伴い現地は保存されていませんが、美保北公園には四隅突出墓をイメージしたオブジェが設置されています。



低地からみつかった四隅突出型墳丘墓

【所在地】出雲市中野町
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター
TEL.0852-36-8608

ひめばらにしいせき 姫原西遺跡 出雲市

【多様な木製品が語る弥生の暮らし】

出雲平野中央部に位置し、旧河道から弥生時代後期の遺物が大量に出土しました。特に木製品は、食器・容器などの日用雑器類や農耕具、祭祀具など多種多様で、弥生時代の暮らしがよくわかる資料です。当時の中国で使用された強力なボーガン形の武器である弩(いしゆみ)を模した製品は、日本では実用品ではなく、祭祀のために使用されたものと考えられます。

弩を模した木製品

【所在地】出雲市姫原町

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター
TEL.0852-36-8608

出雲地域

横田八幡宮 奥出雲町

[鎌倉時代にみつかった銅劍]

横田盆地を見渡す丘陵地形にあり、横田八幡宮を勧請のため、もともとあった横田神社の社地を拡張した際に銅劍が出土したと伝わっています。正確な出土地点や出土状況はわかりません。

横田八幡宮から出土したと伝わる銅劍は県指定有形文化財になっており、古代出雲歴史博物館で展示されています。

【所在地】奥出雲町中村

【お問合せ】奥出雲町教育委員会
TEL.0854-52-2680



横田八幡宮境内の様子



森遺跡群 [神戸川に面した大集落]

飯南町

便宜上森遺跡～森VI遺跡と名付けられたものを含む遺跡群の総称で、神戸川左岸の河岸段丘上に営まれています。圃場整備や道路改良などで発掘調査がおこなわれました。

発掘されたのは遺跡のごく一部ですが、弥生時代には段丘上に大規模な集落が広がっていたとみられます。調査では50棟以上の竪穴建物跡や、十数基のお墓が見つかっています。現地には見学できるところはありませんが、森遺跡群をはじめとする飯南町内から出土した出土品は八神文化財収蔵施設に所蔵されており、一部が見学可能です。見学希望の場合は、事前にお問い合わせください。

【所在地】飯南町八神 【お問合せ】飯南町教育委員会/TEL.0854-72-0301



住居跡発掘の様子



お墓から出土した管玉

板屋Ⅲ遺跡 飯南町

[山間部でみつかった配石墓]

神戸川を見下ろす低い丘陵の上にある遺跡です。志津見ダム建設にともない平成6年から発掘調査がおこなわれ、弥生時代前期後葉の配石墓6基が見つかりました。埋葬した穴の上に人頭大の石を目印のように並べたもので、出雲地域の山間部では貴重な発見となりました。また弥生時代後葉の竪穴建物跡13棟も確認されています。現地は見学できません。

【所在地】飯南町志津見
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター
TEL.0852-36-8608



配石墓群を調査している様子

平田遺跡 雲南市

[鉄器を加工した工房の跡]

斐伊川上流域、旧温泉小学校の周辺に広がる縄文時代からの遺跡です。斐伊川の河川改修事業のため平成11年に発掘調査がおこなわれました。弥生時代後期中葉の竪穴建物跡内から4基の鍛冶炉がみつかり、鉄製品や鉄の破片が出土しています。素材を遠隔地から入手して、比較的低い温度で加熱し折り曲げたり切断して加工したと考えられます。県内でも最も古い段階の鍛冶工房として注目されます。遺構は工事により消滅しましたが、遺跡としては周辺に広がっているものとみられます。

【所在地】雲南市木次町平田
【お問合せ】雲南市教育委員会/TEL.0854-40-1104



斐伊川に接する遺跡 切断した様子がわかる鉄製品

北原本郷遺跡 雲南市

[斐伊川そばの小さなムラ]



焼失した状況で見つかった竪穴建物跡

蛇行する斐伊川左岸の河岸段丘上に営まれた縄文～中世の遺跡です。弥生時代中期～後期の竪穴建物跡が18棟確認されており、氾濫原であっても川に面した便利の良い場所に継続して居住していたことがうかがえます。建物のうち1棟は建築材が燃え落ちた状態で見つかりました。平成14年から発掘調査がおこなわれ、現在は尾原ダムのダム湖に沈んでいます。

【所在地】雲南市木次町北原
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター/TEL.0852-36-8608

島根県立古代出雲歴史博物館

県内の貴重な文化財を
多数展示



【開館時間】9:00～18:00(11月～2月は9:00～17:00)
【入館料】常設展:一般610円・大学生410円・小中高生200円／企画展:展示ごとに金額が異なります。※年間パスポート(1,500円)有り
【お問合せ】TEL.0853-53-8600(代)
【駐車場】一般244台／大型バス15台
【交通】一畑電車出雲大社駅から徒歩7分※JR出雲市駅からは一畑電車乗り換え／一畑バス「古代出雲歴史博物館前」降車／出雲空港から空港連絡バス[出雲大社行35分(出雲大社)]

伯耆地域

伯耆地域の遺跡

伯耆地域では、日本海の沿岸部に点在する潟湖や内海の近く、または小高い砂丘の上に弥生時代前期の村が営まれます。前期の終わり頃には、平野部に面した丘陵上に環濠を築く集落も現れました。

中期から後期には、大山山麓の緩やかな丘陵上にたくさんの村が営まれ、「魏志倭人伝」時代-2世紀頃には、国史跡妻木晚田遺跡に代表される大規模な村が現れます。後期の初め頃には、四隅突出型や方形の墳丘墓が大山山麓の各所に造営されはじめます。墳丘墓の出現は、この地域における有力者層の台頭、集団社会の変化を示す重要な現象と考えられます。また、大山山麓から見つかる弥生時代後半期の集落からは、しばしば焼失した竪穴住居跡が見つかります。焼失住居跡からは炭化した建築材が出土しており、当時の家の様子がわかります。妻木晚田遺跡に復元されている竪穴住居や高床倉庫には、これらの焼失住居跡の情報や青谷上寺地遺跡から出土した豊富な建築部材の調査研究成果が活かされています。



国
指
定

妻木晚田遺跡 [甦る弥生の国邑]

米子市・大山町

むきばんだいせき

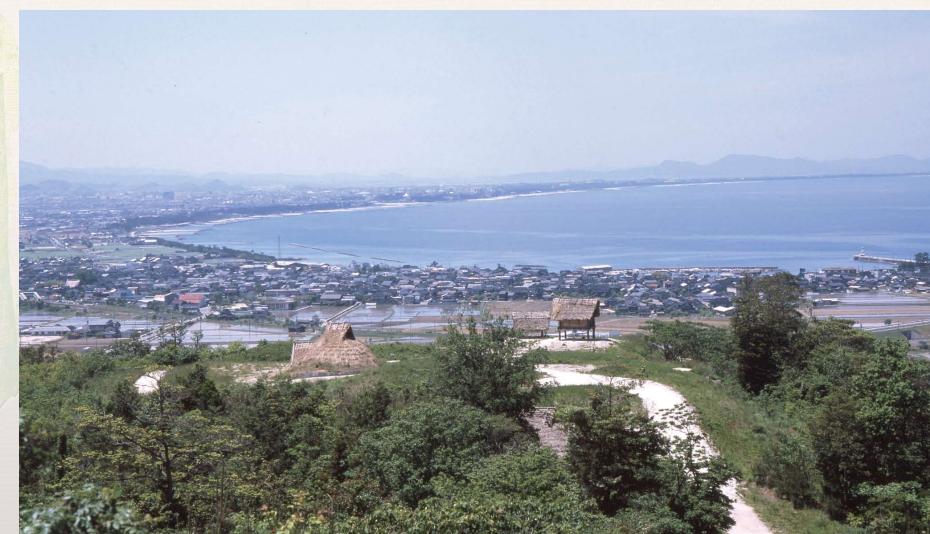
妻木晚田遺跡 [甦る弥生の国邑]

大山北西麓の丘陵上に位置する全国最大規模を誇る弥生時代後半期の集落跡。弥生時代中期にはじまり、後期後半(2世紀後半)に集落規模は最大となります。往時は170ha以上の範囲に居住域が点在していたと考えられ、山陰地方を代表する弥生時代の集落遺跡として、現在約150haが国の史跡に指定されています。遺跡の中に洞ノ原、妻木山、仙谷、妻木新山、松尾頭、松尾城という地区があり、整備を終えた洞ノ原、妻木山、仙谷、妻木新山地区が公開されています。

山陰道「淀江IC」から東を望むと、小高い丘の上に茅を葺いた2棟の高床倉庫が見えます。そこが洞ノ原地区西側丘陵です。ここには2世紀後半の竪穴住居や高床倉庫等が復元されています。洞ノ原地区から見た雄大な日本海の景観は、『魏志倭人伝』の冒頭に記された「倭人は山島に依りて国邑をなす」という一文を彷彿とさせます。

ガイダンス施設「弥生の館むきばんだ」ではいろいろな弥生体験を楽しむことができ、「弥生の暮らし」をテーマにした展示室では、復元された弥生時代の生活道具に触れながら楽しく学習することができます。遺構展示館の中には、発掘調査当時のままで竪穴住居跡が保存され、展示館前の発掘体感ひろばでは、発掘調査を疑似体験できます。

【所在地】米子市淀江町福岡、西伯郡大山町妻木ほか 【お問い合わせ】鳥取県立むきばんだ史跡公園



洞ノ原地区西側丘陵全景



弥生の館むきばんだ(展示・体験学習施設)



よみがえった最盛期のムラ(妻木山地区)

伯耆地域

Information

鳥取県立むきばんだ史跡公園

【開園時間】9:00～17:00(入園は16:30まで)
【入園料】無料(休園日)毎月第4月曜日(祝祭日の場合はその直後の休日ではない日)、年末年始(12/29～1/3)
【お問い合わせ】〒689-3324 鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4 / TEL.0859-37-4000 FAX.0859-37-4001
【ホームページ】<https://www.pref.tottori.lg.jp/mukibanda/>【フェイスブック】<https://www.facebook.com/Mukibanda>



遺構展示館と発掘体感ひろば(妻木山地区)



遺構展示館内部(妻木山地区)

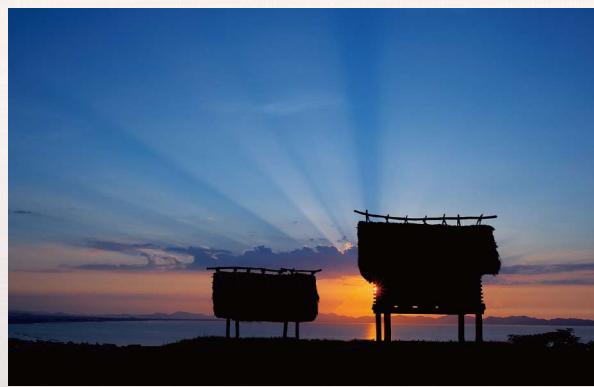
見どころ

展示室

「弥生の館むきばんだ」では、妻木晩田遺跡の主な出土品を展示しており、淀江平野や妻木晩田遺跡の歴史を知ることができます。

竪穴住居跡の展示

妻木山地区にある遺構展示館には、3棟の竪穴住居跡が発掘当時の状態で保存されています。復元竪穴住居と併せて、こちらもご覧ください。



洞ノ原地区(第5回むきばんだ弥生の国邑写真コンクール優秀賞 藤井啓可 撮影)



中国製の鏡(松尾頭地区、松尾城地区出土)



ボランティアガイドによる解説

仙谷地区

洞ノ原墳墓群の次に作られ始めた墳丘墓群で、四隅突出型墳丘墓を含む9基が見つかっています。



洞ノ原地区西側丘陵

環濠と呼ばれる大きな溝が直径65mにわたり丘陵を囲むように掘られています。



洞ノ原地区東側丘陵

平面四角形の四隅が突出した四隅突出型墳丘墓11基を含む大小17基の墳丘墓が見つかっています。



体験

むきばんだ史跡公園では、日本海や弓ヶ浜半島といった雄大な景色を背景に、復元された弥生のムラや、お墓、発掘された住居跡、弥生人にたくさんめぐみをもたらした「むきばんだの森」の見学や散策ができます。また、火おこし、勾玉づくりといった弥生体験、はっくつ体験などを楽しむことができます。



火おこし体験



貫頭衣を着て、ハイチーズ!



弥生体験の作品(土笛・勾玉・石包丁・銅鏡)

すみだいせき
角田遺跡 [弥生の世界観が描かれた土器]

米子市

角田遺跡は、弥生時代の絵画土器（県指定保護文化財）が出土したことで著名な遺跡です。大きな壺の頸部をキャンバスに、頭に大きな羽根飾りをつけた人達が船を漕ぐ姿、樓觀を想わせる高層建築、銅鐸？がつり下げられた木、たたずむ鹿が、まるで絵巻物のように描かれています。また、近くにある中西尾7号墳（日吉塚）からは右手に楯をもつ武人を描いた絵画土器が出土しています。この武人の頭に描かれた三角形の大きな頭飾りは、妻木晚田遺跡の松尾頭地区で出土した「堅穴住居の前に立つ人物」の頭飾りと共通しています。2つの人物像は淀江渦周辺に暮らした弥生人たちの祭りの装いを今に伝えています。



【所在地】米子市淀江町稻吉

【お問い合わせ】米子市文化振興課／TEL.0859-23-5438

Information

上淀白鳳の丘展示館



左に紹介している角田遺跡出土の絵画土器のほか、史跡上淀庵寺跡の壁画など、淀江町内にみつかっている文化財を中心として展示しています。

【開館時間】9:30～18:00【入館料】310円(大人)

【休館日】火曜日、年末年始

【お問い合わせ】鳥取県米子市淀江町福岡977-2

TEL.0859-56-2271



【所在地】米子市淀江町稻吉

【お問い合わせ】米子市文化振興課／TEL.0859-23-5438

Information

福市考古資料館

福市遺跡公園の入口にあり、福市遺跡や、隣接する青木遺跡の出土品をはじめ、目久美遺跡の縄文土器、陰田遺跡の古代の遺物等が展示解説しています。米子市の歴史を詳しく知りたい方は、まずはここに訪れ、貴重な出土品を見学してください。



【開館時間】9:30～17:00

【入館料】無料

【休館日】火曜日、祝日の翌日、年末年始

【お問い合わせ】鳥取県米子市福市461-10／TEL.0859-26-3784

おだかあざやまいせき

尾高浅山遺跡 [3重の環濠に囲まれた村と四隅突出型墳丘墓]

米子市

日野川東岸の平野をみおろす小丘陵上にある遺跡です。小さな谷を挟み、北側の丘陵に3重の環濠に囲まれた居住域、南側の丘陵には四隅突出型墳丘墓があります。いずれも後期の初め頃に営まれたものです。3重の環濠に囲まれた丘陵頂部からは堅穴住居跡や川原石を積み上げた構造が発見されました。この川原石は武器としてもいられた「つぶて石」ではないかと考えられます。また、四隅突出型墳丘墓は妻木晚田遺跡の洞ノ原墳墓群と並ぶ、この地域最古級の墳丘墓です。尾高浅山遺跡の環濠と墳墓は、1世紀後半の社会環境、そして大山山麓地域における有力者層の出現を教えてくれます。現地に立ち入りはできませんが、県道53号線から大山を背景にした遺跡の全景を望むことができます。

【所在地】米子市尾高 【お問い合わせ】米子市文化振興課／TEL.0859-23-5438

国
指
定**福市遺跡** [市民が憩う史跡公園]

米子市

米子市の南部に広がる丘陵地帯は古くから人々の生活の舞台として利用されており、数多くの遺跡がこれまでに確認されています。

福市遺跡は、日野川と法勝寺川の合流地点にある福市丘陵全面に広がる集落遺跡です。住宅団地等の造成が計画され、昭和40年代に大規模な発掘調査が行われました。その結果、弥生時代後期（2世紀）から古墳時代後期（5世紀）頃の堅穴住居跡や墳墓が多数発見され、山陰地方の集落の発展を考え上で極めて貴重な遺跡として注目を集めました。遺跡の一部は国指定史跡として保存活用されています。

現在、福市遺跡公園として整備された遺跡は、緑も豊かで、桜、ツツジ、菖蒲の花も楽しめる市民憩いの公園として親しまれています。

【所在地】米子市福市

【お問い合わせ】米子市文化振興課／TEL.0859-23-5438



復元堅穴住居

市
指
定**目久美遺跡** [水田跡が発見された集落跡]

米子市

縄文時代前期以来、長い歴史をもつ米子平野の拠点的な集落遺跡です。弥生時代の主要な構造に水田跡があります。水田には弥生人の足跡が点々と残っています。木製の農具なども多数出土しています。弥生時代後期の中頃に大洪水によって埋没した大水路も見つかっています。幅4m、深さ2m、長さ数百mにわたって続くこの水路は水田に水を運ぶために作られたものと考えられます。なお、このときの水害で大きなダメージを受けた目久美遺跡は長い集落の歴史に幕を降ろします。出土品は、現在、福市考古資料館や山陰歴史館に展示してあります。

【所在地】米子市目久美町 【お問い合わせ】米子市文化振興課／TEL.0859-23-5438

国
指
定**青木遺跡** [多くの掘立柱建物跡が見つかった弥生のニュータウン]

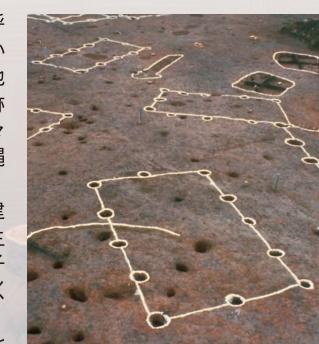
米子市

福市遺跡の南側に接する大規模な集落遺跡です。青木丘陵と呼ばれる標高40m程の緩やかな丘陵には縄文時代晚期から中世にいたる様々な時代の遺跡が存在しています。福市遺跡同様、住宅団地等の大規模な造成が計画され、昭和50年代に40haにもおよぶ遺跡の調査が行われました。その結果、弥生時代中期から奈良時代の人々が生活した堅穴住居跡約130棟、掘立柱建物跡240棟をはじめ、縄文時代の落とし穴や古墳等、貴重な遺構がたくさん見つかりました。

中でも弥生時代中後期の堅穴住居跡とともに見つかった掘立柱建物跡は、当時、他にあまり類例のない貴重な発見でした。そして、弥生時代中期から後期、そして古墳時代、奈良時代へと移り変わる様子が、実際に1つの遺跡でたどれる西日本最大規模の集落跡として多くの人々に注目されました。

現在、遺跡の一部が国の史跡に指定され、団地の中に史跡公園として整備されています。

【所在地】米子市青木、永江 【お問い合わせ】米子市文化振興課／TEL.0859-23-5438



多数みつかった掘立柱建物跡

伯耆地域

Information



米子市埋蔵文化財センター／米子市立山陰歴史館

米子市埋蔵文化財センター
米子市内を中心とした考古資料を展示しています。
【開館時間】9:30～17:00
【入館料】無料

【休館日】毎週土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日から1月3日)
なお、施設利用や行事によっては臨時休館あり。
【お問合せ】米子市福市281／TEL.0859-26-0455



米子市立山陰歴史館
旧米子市役所を利用した歴史資料館です。国史跡米子城跡に関する資料が展示されています。

【開館時間】9:30～18:00 【入館料】無料
【休館日】火曜日、祝日の翌日、年末年始(12月29日から1月3日)
【お問合せ】米子市中町20／TEL.0859-22-7161

ちやばたいせきぐん

茶畠遺跡群 [大型祭殿建物が発見された中期の集落跡] 大山町

大山山麓を代表する弥生時代中期の集落跡です。特に茶畠山道遺跡では、大型の掘立柱建物跡が多数見つかっています。特に注目されるのは、独立棟持柱をもつ遺跡最大の掘立柱建物跡です。建物の正面には、瀬戸内系とみられる土器や赤彩された土器が出土しています。また、周辺から銅鐸形土製品も出土しました。祭祀に関連した遺物を伴うことから、この建物跡は集落を象徴する建物跡だったと考えられます。調査後、遺跡は埋め戻され、現地に保存されています。

【所在地】西伯郡大山町茶畠ほか
【お問合せ】大山町役場観光課
TEL.0859-53-3136



独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物跡(茶畠山道遺跡)

ながやままごめいせき

長山馬籠遺跡 伯耆町

[鳥取最大の掘立柱建物跡]

日野川の中上流域を代表する弥生時代中期の集落跡です。

ここでは鳥取県最大の掘立柱建物跡が見つかっています。この大型建物跡の特徴は建物の片側に庇があることです。

また、建物の内部にあったと考えられる土坑から、赤彩された壺や高杯が出土しました。隣接する大型の竪穴住居跡からは、漆塗の甕や高杯、舶載品とみられる鉄斧等が出土しています。山間地域の拠点として営まれた村だったと考えられます。

【所在地】西伯郡伯耆町長山
【お問合せ】伯耆町教育委員会／TEL.0859-62-0712

こしきさんいせき

越敷山遺跡 伯耆町・南部町

[日野川左岸の大規模集落]

伯耆町と南部町にまたがる越敷山に広がる弥生時代後期の集落遺跡。妻木晩田遺跡と同時期に営まれた山陰地方を代表する大規模集落です。約150棟の竪穴住居跡をはじめ、たくさんの建物跡が見つかっています。

この集落跡に伴う墳丘墓等はまだ見つかっていませんが、大量の鉄器を保有していることから、この地域の拠点的な集落であったと考えられます。

【所在地】西伯郡伯耆町小町・西伯郡南部町荻名
【お問合せ】伯耆町教育委員会・南部町教育委員会
TEL.0859-62-0712・0859-64-3782

ながせたかはまいせき

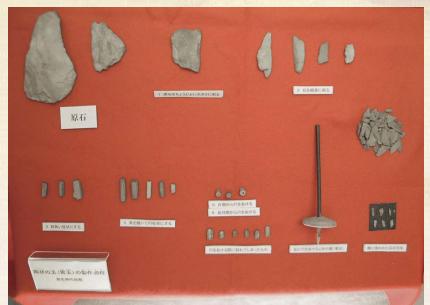
長瀬高浜遺跡 [日本最古級の弥生の玉作り工房跡] 湯梨浜町

湯梨浜町の砂丘地帯に位置する長瀬高浜遺跡は、古墳時代の埴輪群がみつかったことで有名な遺跡ですが、弥生時代でも注目すべき出土遺物があります。

昭和56年の調査でみつかった弥生時代前期の竪穴住居跡2棟のうち1棟から、管玉など玉製品の作りかけの素材や石材のカスが多量にみつかり、弥生時代としては日本最古級の玉作りの跡として注目を集めました。

湯梨浜町羽合歴史民俗資料館では、長瀬高浜遺跡で行われた玉作りの過程がわかるように、素材から製品まで展示しています。

【所在地】東伯郡湯梨浜町長瀬
【お問合せ】湯梨浜町教育委員会／TEL.0858-35-5367



玉作りの過程がわかる展示(県指定保護文化財)

Information

湯梨浜町羽合歴史民俗資料館



主な弥生時代展示品

- ・長瀬高浜遺跡出土玉製品
- ・長瀬高浜遺跡出土土器

みやうちだいいちいせき

宮内第1遺跡 [弥生時代最長の鉄刀] 湯梨浜町

東郷池を望む丘陵尾根上に立地する遺跡で、四隅突出型墳丘墓1基を含む4基の墳丘墓がみつかっています。

四隅突出型墳丘墓である宮内1号墓には、鉄剣(第1主体部)、鉄刀(第2主体部)、管玉(第3主体部)が副葬されていました。このうち鉄剣・鉄刀はそれぞれ現在日本でみつかっている弥生時代鉄剣・鉄刀では最長のものです。

外国製(中国・朝鮮半島製)と考えられるこれらの鉄製武器は、宮内1号墓に葬られた人物が地域の有力者であることを想像させてくれます。

【所在地】東伯郡湯梨浜町宮内
【お問合せ】湯梨浜町教育委員会／TEL.0858-35-5367



出土した状況から、管玉は被葬者の首にかけられていたものと考えられます。

伯耆地域

国
指定

阿弥大寺墳丘墓群

[国府川流域を支配した首長の墓]

倉吉市

天神川の支流・国府川の河岸段丘上に築かれた弥生後期後半の四隅突出型墳丘墓群です。1~3号墓の3基が東西に並列して築かれ、いずれも墳丘の南側だけ残っていました。墳丘の斜面と突出部には30cm角程の川原石が貼られ、特に突出部は稜線上に川原石が一列に並べ置かれていました。最も大きい1号墓は突出部を含めると東西17.8m、墳丘の残存高0.8mで、墳丘外の溝の中に大小12基の土壙墓を伴います。

現在は埋め戻して保存されており、出土品(県指定保護文化財)は倉吉博物館に展示されています。

【所在地】倉吉市下福田

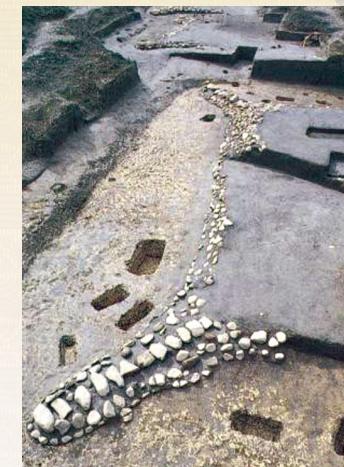
【お問合せ】倉吉市教育委員会 / TEL.0858-22-4419



現在の様子



出土した土器(県指定保護文化財)



発掘調査時の様子

大谷後口谷墳丘墓群

[吉備と交流した有力者の墓]

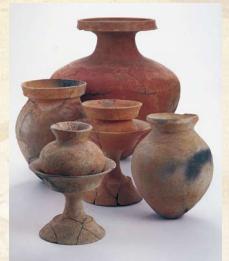
倉吉市

四王寺山南西の丘陵上に築かれた弥生後期後半の墳丘墓です。2基みつかっていて、どちらも四隅部分を掘り残して四辺に溝を設けた方形墳丘墓です。1号墓(16×12m)→2号墓(9×7m)の順に造されました。墳頂部と周溝から土器が出土しましたが副葬品はありませんでした。この周辺の丘陵上には弥生時代中期～古墳時代前期の集落が多くみつかっており、この地域の有力者の墓と考えられます。出土品は、倉吉博物館で見ることができます。

【所在地】倉吉市大谷 【お問合せ】倉吉市教育委員会 / TEL.0858-22-4419



方形墳丘墓



墳丘墓に供えられた土器

東前遺跡

倉吉市

[弥生時代中期の玉作工房]

国府川左岸の微高地でみつかった集落跡です。玉作工房跡3棟が調査され、碧玉製管玉とともに、管玉の穿孔に使用した石針など工具類も多数出土しました。

【所在地】倉吉市不入岡

【お問合せ】倉吉市教育委員会 / TEL.0858-22-4419

丸山遺跡

三朝町

[山間部の要衝をおさえた集落]

三徳川と加茂川の合流点付近にある段丘上に立地する集落跡です。弥生時代中期～古墳時代前期の竪穴住居跡45棟、貯蔵穴を含む土坑35基などが見つかっています。

【所在地】東伯郡三朝町本泉

【お問合せ】三朝町教育委員会 / TEL.0858-43-3518

西高江遺跡

北栄町

[宝石職人の集落]

弥生時代中期末～後期初頭の集落跡で、見つかった竪穴住居跡8棟中7棟から砥石

と多量の水晶の破片が見つかっており、弥生時代の宝石職人が住んだ集落と考えられています。

【所在地】東伯郡北栄町由良宿 【お問合せ】北栄町教育委員会 / TEL.0858-37-5871

笠見第3遺跡

琴浦町

[大山東麓の拠点集落]

田越の丘陵上に弥生時代中期末から古墳時代後期まで営まれた集落跡で、弥生時代の竪穴住居跡136棟、掘立柱建物跡10棟などが見つかっています。弥生時代後期には赤色顔料や緑色凝灰岩製玉類の生産を行い、鉄器やガラス玉を多数保有するなど、地域の拠点的な集落であったと考えられます。

【所在地】東伯郡琴浦町笠見 【お問合せ】琴浦町教育委員会 / TEL.0858-52-1161



集落跡

中峯遺跡

倉吉市

[珍しい鳥形のスタンプ文土器]

久米ヶ原丘陵の東辺でみつかった弥生～奈良時代の集落跡です。調査地から150m離れた畑で、鳥形のスタンプ文を施した壺の破片が発見されています。

鳥形のスタンプは、山陰と山陽を結ぶ、ごく限られた地域でしか発見されておらず、当時、この倉吉地方と吉備には強い結びつきがあったことがうかがえます。

【所在地】倉吉市国府

【お問合せ】倉吉市教育委員会 / TEL.0858-22-4419



鳥形のスタンプ文土器

後中尾遺跡

倉吉市

[弥生時代中期後半の環濠集落]

高城山から東へ延びる舌状台地でみつかった弥生時代中期後半の環濠集落です。

台地の基部と先端部に100mの間隔を開けて幅1m、深さ1mで断面V字状の溝を設け、集落を囲んでいました。

当時の集落は、3棟から4棟の竪穴住居が貯蔵穴を伴って、台地の4カ所に存在していました。

【所在地】倉吉市上米積

【お問合せ】倉吉市教育委員会 / TEL.0858-22-4419



環濠集落

因幡地域

国
指定

青谷上寺地遺跡 [地下の弥生博物館]

鳥取市

因幡地域西部の青谷平野にあり、国史跡に指定されている弥生時代遺跡。多彩な出土品とそのまことに見る保存状態の良さから「地下の弥生博物館」と呼ばれています。当時は内湾の水辺に面していたと考えられ、集落中心部では矢板などで周囲を護岸する大規模な土木工事がなされ、その西・南側には水田が広がっていました。農業・漁労を営みながら、他地域と海を介した交流・交易を行なっていた弥生人の勇姿を彷彿とさせる遺跡です。

出土品は数万点に及び、「倭国乱」の実態を示すとされる殺傷痕人骨や奇跡的に残っていた弥生人の脳、弥生の匠のわざを伝える木製容器など、倭人の暮らしやぶりを明らかにする資料は枚挙に暇がないほどです。「魏志倭人伝」に描かれた倭人の暮らしや弥生の國々の実態を示す数々の発見は全国から注目されています。令和元年、出土品のうち1,353点が重要文化財に指定されました。遺跡に近い青谷上寺地遺跡展示館やとっとり弥生の王国推進課 青谷上寺地遺跡整備室、県立博物館では、素晴らしい出土品の数々を見ることができます。※現地は埋め戻されています。

【所在地】鳥取市青谷町字上寺地ほか



漁労具とサメの描かれた土器



精巧な木製容器



額を割られた殺傷痕人骨



弥生時代の青谷上寺地遺跡(復元CG)



矢板が打ち込まれた土木工事の跡



動物の描かれた琴板

青谷上寺地遺跡の出土品紹介

青谷上寺地遺跡から出土した豊富な遺物は、当時の人々の活動をリアルに物語ってくれます。

青谷上寺地遺跡展示館、とっとり弥生の王国推進課 青谷上寺地遺跡整備室、県立博物館で見学できます。



彩色木樋

赤く塗られた木製の樋です。
表面には文様が描かれています。

戦
い



銅鎗

銅製のやじりです。
このほかに、鉄製・骨製・木製のものも出土しています。



鋳造鉄器

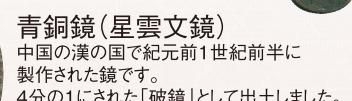
大陸製の鉄器です。
当時最先端の技術で
つくられたことがわかっています。

交
流



貨泉

中国(新)のお金です。
弥生人たちがこれをお金として
使用していたかどうかは
諸説あります。



青銅鏡(星雲文鏡)

中国の漢の国で紀元前1世紀前半に
製作された鏡です。
4分の1にされた「破鏡」として出土しました。



ものづくり

玉作り

素材から作りかけのもの、
完成品とすべての段階の
ものが出土しており、
玉製品の製作過程が
良くわかります。



木製容器

写真のような秀麗な
木製品のほか、
つくりかけのもの
もたくさん出土して
います。

漁労・稲作



漁労具と農具

鍬・鋤・植などの農具や、
櫂・釣り針・鋸先などの
漁労具がたくさん出土しています。

古
い

ト骨

占いに使われた動物の骨で、
出土数は日本一を誇り、
さかんに占いをおこなっていた
様子がわかります。



因幡地域

Information

青谷上寺地遺跡展示館

青谷上寺地遺跡で出土した多数の遺物が展示されているほか、勾玉作りなど、各種体験イベントを開催しています。

【開館時間】9:00～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】

月曜日(月曜が祝日の場合は翌日の平日)

祝日の翌日・年末年始

【入館料】無料

【交通】

車:青谷インターから3分／徒歩:JR青谷駅から3分

【お問合せ】

鳥取市青谷町青谷4064 / TEL.0857-85-0841



Information

とっとり弥生の王国推進課 青谷上寺地遺跡整備室

とっとり弥生の王国推進課 青谷上寺地遺跡整備室では、「収蔵展示室」で青谷上寺地遺跡の出土品の収蔵状況を公開しています。

【展示解説】

職員が展示解説を行います。団体でお越しの際は事前にお申し込みください。

【公開日時】月～金曜日 9:00～17:00

※祝祭日・年末年始(12/29～1/3を除く)

【入館料】無料

【お問合せ】

鳥取市青谷町青谷667番地(青谷町総合支所2階)
TEL.0857-85-5011

収蔵展示室



県 史 跡

新井三嶋谷墳丘墓 [弥生王墓の威容]

岩美町

因幡地域の東端、蒲生川を見下ろす小高い丘陵上にある後期初め頃の弥生墳丘墓。1号墓はこの時期としては最も規模の大きい南北24mの四角い形の墳丘の斜面に、びっしり石が貼り付けられており、3基の埋葬施設がみつかっています。2号墓は貼石のない方形墳丘墓でした。

墳丘墓は岩美南小学校に隣接して整備されており、因幡の弥生王墓の威容を見るることができます。

【所在地】岩美郡岩美町新井

【お問合せ】岩美町教育委員会 / TEL.0857-73-1302



40

市 指 定

糸谷1号墳丘墓

鳥取市

[四隅突出型の墓]

袋川中流域で丘陵上に造営された一辺17mの終末期の貼石墳丘墓。因幡地域で数少ない四隅突出型墳丘墓と考えられています。

【所在地】鳥取市国府町糸谷

【お問い合わせ】鳥取市教育委員会 / TEL.0857-20-3367



四隅突出型墳丘墓

西桂見墳丘墓 [謎の大墳丘墓]

鳥取市

発見された時には既に大半が破壊されていましたが、弥生時代終末期に造営された一辺64mある因幡地方最大の墳丘墓と言われ、最大の四隅突出型墳丘墓とする意見もあります。

竹管文などの文様を施した特殊な大型土器が採取されており、王の埋葬にあたって特別に作られ、墓に供えられたものと思われます。

【所在地】鳥取市桂見

【お問い合わせ】鳥取市教育委員会 / TEL.0857-20-3367

墳丘墓に供えられた土器(県立博物館所蔵)

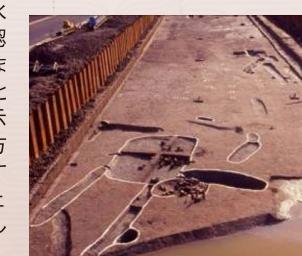


岩吉遺跡

鳥取市

[千代川下流域の拠点集落]

千代川河口近くの左岸平野部にある大規模な低湿地遺跡。弥生時代を通じて集落が営まれ、この地域にあった「クニ」の拠点集落だと考えられています。中期から後期の掘立柱建物跡や後期の水田跡が確認されています。他地域との交流を示す東海地方をはじめとする地域の土器が出土しています。



【所在地】鳥取市岩吉・安長ほか

【お問い合わせ】鳥取市教育委員会 / TEL.0857-20-3367

西大路土居遺跡

鳥取市

[因幡で唯一銅剣出土]

鳥取平野南側の大路山の山裾に営まれた前期～後期の集落跡。竪穴住居跡や掘立柱建物跡、井戸跡などが確認され、近畿北部地域の土器がまとまって出土した住居跡もありました。

先端を欠いた因幡地方で唯一の銅剣が出土しています。

【所在地】鳥取市西大路

【お問い合わせ】鳥取市教育委員会 / TEL.0857-20-3367



銅剣が出土した様子

41

因幡地域

まつばらいちごうふんきゅうぼ

松原1号墳丘墓 [湖山池を見下ろす首長墓]

鳥取市

湖山池の南岸に面した尾根に
あった弥生時代後期の墳丘墓で
す。東西約13.5m、南北約12m
の長方形のお墓で墳丘の内外に
30基前後の埋葬施設が確認さ
れています。墳丘頂部の埋葬施
設4基には、約1200点にも及ぶ
大量のガラス製装飾品(勾玉・管
玉・小玉)をはじめ、鉄製の刀子
(とうす)や鎌(やじり)が供えられ
てきました。

権威の象徴として当時の貴重
品であったガラス製品を大量にも
つことから、松原1号墳丘墓に葬
られたのは湖山池の周辺を治め
た有力な首長と考えられます。



松原1号墳丘墓(湖山池を望む)



真上から見た様子



出土したガラス製装飾品

【所在地】鳥取市松原 【お問合せ】鳥取市教育委員会 / TEL.0857-20-3367

ふせつるさしおくふんきゅうぼ

布勢鶴指奥墳丘墓 [朱に彩られた祈り]

鳥取市

県営総合運動場の周辺では、中期末～後期前半の
遺跡があり、竪穴住居跡や掘立柱建物跡、墳丘墓など
が発見されています。

なかでも布勢鶴指奥墳丘墓は、弥生時代後期中頃に
造営された南北約18mの方形の貼石墳丘墓で、埋葬に
際しては木棺内に厚く水銀朱が敷き詰められていました。

【所在地】鳥取市布勢

【お問合せ】鳥取市教育委員会 / TEL.0857-20-3367

布勢鶴指奥墳丘墓埋蔵施設



42

もとだかゆみのいせき

本高弓ノ木遺跡 [弥生前期から続く土地利用]

鳥取市

千代川の西岸の平野にあり、弥生時代前期から後期
にかけて営まれていた集落の跡が見つかっています。

弥生時代開始期の河川から貯木されてきた直径20
cm前後の丸太材が大量に出土しました。丸太材には枝
打ちや樹皮を剥がした痕が残っていました。弥生時代の
木材利用のあり方を示す最古例として貴重な発見です。

また、遺跡の一角から弥生時代後期に築かれた約
23×17mの貼石を伴う盛土がみつかります。

埋葬施設は確認できませんでしたが、盛土の四隅が突
出しており、墳丘墓の可能性がうかがわれる遺構です。

【所在地】鳥取市本高

【お問合せ】鳥取市教育委員会 / TEL.0857-20-3367



盛土遺構



河川における貯木の様子



木製鉢出土状況

まんたいじいせき

万代寺遺跡

八頭町

【弥生中期のムラと墓】

八東川と私都川に挟まれた微高地に営まれた中期中頃の集落遺跡。昭和57年に行なわれた発掘調査で、大型の竪穴住居跡や36基もの木棺墓などが確認されています。このうち木棺墓群は溝で区画され、方向を揃えて整然と配置されているのがわかります。

【所在地】八頭郡八頭町万代寺

【お問合せ】八頭町教育委員会 / TEL.0858-84-1232



木棺墓群

ちづくらだいせき
智頭枕田遺跡

智頭町

【山間地の弥生集落】

千代川上流域の智頭枕田遺跡からは、溝や掘立柱建物跡とともに、前期～後期までの土器・石器が出土しています(県保護文化財)。県境にある遺跡らしく、山陽側と共に土器も見つかっています。

【所在地】八頭郡智頭町智頭

【お問合せ】智頭町教育委員会 / TEL.0858-75-3113



土器が出土した様子

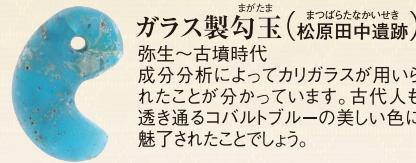
大型の器台

43

因幡地域

因幡が誇る出土品の数々

平成20年度から始まった鳥取西道路などの大規模な開発事業に伴う発掘調査では、因幡地域の歴史を塗り替える重要な発見が相次ぎました。ここでは、膨大に出土した遺物の中でも選りすぐりの逸品をごく一部紹介します。ここでご紹介する遺跡の出土品の一部は、鳥取県埋蔵文化財センターの常設展示や企画展示で見ることができます。



ガラス製勾玉(松原田中遺跡)

弥生～古墳時代
成分分析によってカリガラスが用いられたことが分かります。古代人も透き通るコバルトブルーの美しい色に魅了されたことでしょう。



八禽鏡

(乙亥正屋敷廻遺跡)
弥生時代後期～古墳時代初め
(約1,700～2,000年前)
中国から伝わった青銅鏡。向かい合う鳥が描かれています。
鏡は破片のまま使われた破鏡で、小穴に紐を通したと考えられます。

アワビオコシ(青谷横木遺跡)

弥生時代中期～古墳時代初め
(2,100年前～1,700年前)
アワビやカキを岩から剥ぎ取る
へら状の道具。鹿角製で、持ち手も握りやすいように加工されています。

玉つくり関連遺物(常松菅田遺跡)

弥生時代中期
(約2,100年前)
北陸から運ばれてきた碧玉を使って管玉を作成し、製作時に生じた剥片や砥石や石針(ドリル)といった加工道具も出土しています。ごく孔を開けるための安山岩製の石針がたくさん出土しています。

弥生時代の秀麗な木製品



1 花弁高杯

2 台付壺と蓋

3 把手付き桶

4 紡錘車

5 台付壺

6 腰掛

7 匙

平野部にある低湿地遺跡では、地下水位が高いために通常の遺跡では腐って残らない木製品が大量に出土しています。国史跡青谷上寺地遺跡を特徴付ける出土品の一つに秀麗な木製品がありますが、周辺の遺跡でも非常によく似た木製品が数多く出土しており、因幡地域の弥生人が高度な木工技術をもっていたことがあります。

1～6：乙亥正屋敷廻遺跡
7：青谷横木遺跡

Information

鳥取市歴史博物館(やまびこ館)

江戸時代を中心に鳥取の歴史・文化について常設展示し、鳥取に関する特別展も開催している。

【開館時間】9:00～17:00(16:30最終入館)

【休館日】月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日、年末年始

【入館料】300円(高校生以下・65歳以上の方・障がい等のある方無料 ※特別展等は別途料金)

【お問合せ】鳥取市上町／TEL.0857-23-2140



高住銅鐸

昭和10年代、鳥取市高住において兔を捕るためにワナを仕掛けようと斜面の土を掘った際にみつかったものです。流水紋と呼ばれる文様が美しい優品です。
個人展(鳥取市歴史博物館寄託)



Information

鳥取県立博物館

鳥取県の歴史・民俗、自然、美術を学ぶことができる総合博物館で、旧石器時代から近世までの代表的な出土品を展示しています。国史跡鳥取城跡の中にあります。

【開館時間】9:00～17:00※4月から8月までの企画展開催中の土曜日は19:00まで開館

【休館日】月曜日、祝日の翌日、年末年始

【入館料】180円(大学生以下・70歳以上・障がいのある方無料)

【お問合せ】鳥取市東町2丁目／TEL.0857-26-8042



主な弥生時代展示品

・西桂見墳丘墓出土土器・八頭町下坂出土銅鐸など



下坂銅鐸

島根県加茂岩倉遺跡出土銅鐸のなかに同じ鋳型で作られた“兄弟銅鐸”があることが分かっています。発見されたのは下坂銅鐸が先ですから、こちらが“兄”でしょうか。



越路銅鐸

高住銅鐸と同じく流水文銅鐸です。
こちらは香川県・徳島県で兄弟銅鐸がみつかっています。



Information

鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県内の遺跡情報を知ることができます。展示室では県内で発掘された出土品などを見学できます。



【利用時間】9:00～17:00

【休館日】土・日・祝祭日、年末年始

(企画展期間中の第1・3土曜日の13:00～17:00は特別開館、その他の特別開館はホームページにてお知らせします。)

【お問合せ】
鳥取市国府町宮下
TEL.0857-27-6711